

がん腫	消化器癌	大腸癌
レジメン	SOX	
レジメン内容	用量	点滴時間
	S-1	40mg/m ² *2
	I-OHP	130mg/m ²
		経口 2投1休
		2時間
		Day1
		○ … ○
		↓

1 クールの期間 3 週間

処方 消化器 医師名なし 外来	注射 消化器 医師名なし
Rp01	Rp01 予定+0日後から1日分 毎日-(1)
エスワンタイ休配合OD錠T20▲◇ 変更不可	2錠
エスワンタイ休配合OD錠T25▲◇ 変更不可	2錠
.. 1日2回朝夕食後	7日
.. 月 日から	
.. 2投1休	
	メイン点滴 末梢①
	点滴(メイン、自然滴下)
	ルートキープ
	大塚糖液 5%250ml
	1 本
	Rp02 予定+0日後から1日分 毎日-(1)
	側管点滴 末梢①
	点滴(側管、自然滴下)
	15分かけて注入
	アロキシ静注0.75mg/5ml
	1 瓶
	デキサート注射液6.6mg 2mL
	9.9 mg
	生食 50ml
	1 本
	Rp03 予定+0日後から1日分 毎日-(1)
	大腸癌SOX 原法 130mg/m ²
	側管点滴 末梢①
	点滴(側管、自然滴下)
	120分かけて注入
	オキサリプラチン点滴静注液200mg「NKJ」★
	1 mg
	オキサリプラチン点滴静注液100mg「NKJ」★
	1 mg
	オキサリプラチン点滴静注液50mg「NKJ」★
	1 mg
	大塚糖液 5%250ml
	1 本

レジメンについて 分子標的治療の対象とならない症例で1次治療としての候補（3週まわしであるため、抗EGFR抗体薬を組み合わせることはないが、抗VEGF抗体を組み合わせることはある）。

ポートを使用しない点で利便性が高いが、エビデンスレベルは低いため、日常臨床で用いる場合症例は限定されるべきである。SP療法に比べ外来での投与が可能で、またCapeが使用しにくい場合に1次治療となりうる。2次治療以降でのエビデンスはない。

主なエビデンス G-SOX 試験（ASCO GI Symposium. Abstract #60, 2013）

減量・中止基準 《 減量基準 》

【 TS-1 】

Ccr ≥ 80 初回基準量

60 ≤ < 80 初回基準量（必要に応じて1段階減量）

30 ≤ < 60 原則として1段階以上の減量（30~40未満は2段階減量が望ましい、最低40mg/回）

Ccr < 30 投与不可

【 I-OHP 】

Ccr > 20 であれば、減量の必要なし

《 減量幅 》

I-OHP 130 → 100 → 75mg/m²

S-1 60 → 50 → 40mg/回 (最低 40mg/回)

OG-SOX 試験における適格基準

- ・ 治癒切除不能な進行・再発胃癌であることが組織学的に確認されている。
- ・ 20 歳以上
- ・ ECOG PS 0-2
- ・ 測定可能病変を有する
- ・ 経口投与可能
- ・ 前化学療法歴あるいは放射線治療歴がない
- ・ 主要臓器機能が保たれている (下記)

項目	適格基準
白血球数 (/mm ³)	12000 以下
好中球数 (/mm ³)	1500 以上
血小板数 (/ mm ³)	100000 以上
ヘモグロビン (g/dL)	8.0 以上
総ビリルビン	施設基準値上限の 1.5 倍以下
AST , ALT	施設基準値上限の 2.5 倍以下 (肝転移がある場合、施設基準値上限の 5 倍以下)
ALP	施設基準値上限の 2.5 倍以下 (肝転移がある場合、施設基準値上限の 5 倍以下)
血清クレアチニン	施設基準値上限以下
Ccr (mL/min)	50 以上 (50 未満の場合、登録不可 (減量基準はなし))

主な副作用 (%)	✓ 好中球減少 (19.5%)、貧血 (15.1%)、血小板減少 (10.1%)
当院レジメンについて	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大腸癌の SOX は I-OHP の投与量は 130mg/m² が標準。胃癌の SOX では 100mg/m² で施行されることが多いため、注意を要する。 ✓ 中央値 9~10 回目に過敏症が発現しやすい。血圧降下、気管支痙攣、血管浮腫などの症状が発現した場合は、注入速度を緩めるか中止する。重篤な症状の場合は、直ちに投与を中止し、適切な処置を行う。
患者への注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ✓ オキサリプラチンによる過敏症に注意するよう説明する ✓ S-1 は食後に内服すること
参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ✓ がん薬物療法ガイド P126 編集 国立がん研究センター 内科レジデント・薬剤部レジデント (医学書院) ✓ エビデンスに基づいた癌化学療法ハンドブック 2017 編集 国立がん研究センター東病院 病院長 大津 敦 (メディカルビュー社)